

江戸時代の伝書(川越重昌氏寄贈)

塩硝傳書密書などの事 正保元、4年(1644、10月) 武官久兵衛、武官守五郎助

塩硝傳書密書などの口伝。右の件に付録としての口伝、塩硝、硝黄、火薬の製法などを記す。

正保4年2月16日、『西本願寺の密書』(大正12年、西本願寺の事、幕末期、豊前守の事あり。佐藤義の製法を記したもの)。

正保4年2月16日、『西本願寺の密書』(大正12年、西本願寺の事、幕末期、豊前守の事あり。佐藤義の製法を記したもの)。

硝中医産物 著用「硝煙工房圖会」上卷之内 正徳2年(1712) 刻
硝の本草解説書。日本初版大成刊行会

硝中醫之法 著用「硝煙工房圖会」中卷之内 正徳2年(1712) 刻
硝の本草解説書。日本初版。硝の有効部位の事。土本にて水煎候定法、
火煎法、火煮法等の製法の事。毛筆書14枚、所蔵者氏蔵。川越史

硝本草 附用「硝煙工房圖会」中卷之内 著用「硝煙工房圖会」中卷之内 正徳2年(1712) 刻
硝の本草解説書。火煎法の事。火煮法の事。火煮法の事。頭に根を煎り根を火煮し頭
を火煮の事。根を火煮の事。此處根頭煎於水等。粗細の事。根頭

分類 2 - A

江戸期の硝石（焰硝・塩硝）製法伝書などの文献資料

1 ~ 32

ア～ク（年号など不明のもの）

1 塩硝清煮薬煮などの事 正保元、4年（1644、1647）武宮久兵衛、武宮与五左衛門

・塩硝6斤に水5合の口伝、右6斤に付薬三あての口伝、塩硝、硫黄、灰の合薬口伝などを記す。

正保4年2月吉日、両名より石井六大夫宛には、芋柄灰の事、薬部屋建様の事あり。徳島藩の製法伝書とみられる。

毛筆書15枚綴、澤田平氏所蔵。川越史81

2 越中国産物 焰消「和漢三才図会上巻之内」正徳二年（1712）刻
昭和4年復刻版、日本隨筆大成刊行会

3

焰硝取之法 寛保2年（1742）2月吉日
・土本諸道具覚、煮本道具、焰硝有家見立の事、土本にて水漉候定法、煮元定法、荒煮焰硝塩ぬきの事。毛筆書14枚、所荘吉氏蔵。川越史67

4

塩本記 明和3年（1766）3月吉日、青木安左衛門英通著
・土見積の事、灰見積の事、入用の諸道具、煎に掛り前日拵の次第、是より煎の次第、清煮仕様の事、此度塩硝煎候次第、秘伝の事。西沢勇

5

山塩硝 寛政5年(1793)本多利明著

◦水辺に遠く日向宜く切立て険岨なる山を吉とす。毛筆書2枚。京都大学附属図書館蔵、東北大狩野文庫所蔵。川越史53. 54。

6

焰硝基源論 寛政5年(1793)東都魯鈍斎本多利明著

◦夫焰硝は何物なるやと胸中に疑心ありては其採方もまた全きを得る事難し、此故に先最初に其性を知るべし、一証、又一証、硝石製造大略。毛筆書7枚。京都大学附属図書館所蔵(大野弁吉書写)、東北大狩野文庫所蔵。川越史52・53・54・63。

7

塩硝煎様之事 寛政5年(1793)山家甚五左衛門遺篇(山鹿素行)

◦上の土は甘く辛し、煎の事、再煎の事、灰の事、久敷薬なおし様の事など毛筆書6枚。東北大狩野文庫所蔵、東京大学附属図書館所蔵(近藤重藏家本)。京都大学附属図書館に残欠の「硝石煎法」。活字本「日本火術考」西沢勇志智編著、聚芳閣刊。川越史52. 53. 63. 69

8

浅草御蔵焰硝製法仰付られ、野州より呼寄せの功者兩人へ問合せの書付覚 寛政五年(1793)11月、最上徳内筆

◦焰消有之候見立の事、焰硝有之やの目利かせの事、土漉の事、煎様の次第、灰漉の仕様、仕上げ製法、一日の出来高、薪の量。毛筆書15枚。東北大狩野文庫所蔵。京都大学附属図書館所蔵(嘉永6年書写)。西沢勇志智著「日本火術考」聚芳閣刊。川越史53・63・69。煎様の次第から薪の量まで、毛筆書10枚、寛政8年中村直恭書写。所蔵吉氏所蔵。

9

(無題) 塩硝基源論 寛政5年(1793)冬11月、本多利明識

◦焰硝は日輪の温氣地中に入て焰硝となり又海中に入て潮汐となり其後

硫黄となる云々。毛筆書4枚。東京大学附属図書館所蔵（近藤重蔵家藏本）。所蔵吉所蔵（寛政8年中村直恭書写）。川越史63。

10

硝石製造大略 寛政5年（1793） 本多利明著（年号著者疑あり）
。硝石の質は元と硝酸と灰汁塩との二種相混合して成る物なり云々。毛筆書3枚。京都大学附属図書館所蔵（大野弁吉蔵書写）。川越史54。

11

塩硝製法伝書 文化元年（1804）12月 小治郎倅近五郎より中村三内宛書上
。塩硝土取方の事、煮方の事、薬の事、塩硝清煮の事、塩硝煮方諸道具
毛筆書6枚続紙。莊内藩史料（秋田県）。川越重昌所蔵史65。

12

神物知新 文化5年（1808）訳

。夫焰硝は炮術第一の主薬たり云々、私かに神物知新と題せし一の小冊を述たり、戊辰仲夏。毛筆書7枚。東京大学附属図書館所蔵。合冊表題名は「焰硝採方作方合薬製法」。川越史52。

13

陽精顯秘訣 文化8年（1811）12月25日 赤松源則陽著
。加賀越中にては昔より毎年百姓焰硝を作り国君元納め又他国へ売出す事なり。右作り土より毎年焰硝出るなり、焰硝作るに宜しき草類、作物の殻類肥に宜物、焰硝煮時入用の道具。右は常州土浦の小島儀兵衛が賀州常右衛門に学びたる製法なり。西沢勇志智編著「日本火術考」昭和2年刊。および同人著「日本火術薬法之卷」昭和10年刊に全文。川越史52. 69。

14

潮汐中焰硝製法 文化9年（1812） 本多利明著

。塩釜に苦潮汐を張りて煮つめ段々とつまり云々、灰漉、前後本末首尾貫せずして為事は終に行届かず後悔先に立たざる事なり。毛筆書2枚水戸彰考館所蔵。川越史73。

15

硝石製法備用集序 文化11年（1814）孟春日、斎藤甚太夫忠利識

- 硝石の説、択土地の法、作硝の法、破木の法、焚火の法、造竈の法、入用の諸道具。以上冊の上。冊の下に製法
- 補遺に今三十諸国より産する所の硝石を試みるに加州を第一品とす、出羽の米沢其次なり飛驒又その次なり、主君に暇を乞い五箇山に至る、老若男女其製煉自然に妙を得たり。毛筆書12枚。内閣文庫所蔵（文鳳堂雜纂52）。川越重昌所蔵、史70。

16

塩硝製法書 文政3年（1820）6月11日写

- 1 塩硝煎様の事、山家甚五左衛門遺篇に同じ
- 2 焰硝製法仰付られ野州の両名へ問合せ申す書付覚、最上徳内著に同じ
- 3 煎薬の次第、最上徳内著に同じ
- 4 硫黄煮直様の事、元書は寛永5年異国船来着のときオランダ人より伝えるもの
- 5 浅倉御蔵床下出来製法の事、最上徳内著に同じ
- 6 山塩硝、本多利明著に同じ
- 7 焰硝基源論、本多利明著に同じ

毛筆書30枚 1冊に綴込、椎川氏より借求 森田泰由書写、所蔵吉所蔵川越史64。

17

砲術明鑑－火硝製造編 文政5年（1822）閏正月、越中富山、山田森重述。近江膳所、森鼎錄

- 総論、検土、開場、采硝、理滓、再煎、精煎、計費、品産、餘論、以上10項から成る。
- 品産の項に、本邦諸国より産する所硝石を品等左に列す。加賀の五ヶ山、加州領越中国に属す、上製斗他国へ出るこれを本邦第一硝石の上品とす、煎鍊の法此書に述るが如し。毛筆書37枚綴1冊。安斎実氏所蔵、所蔵吉氏所蔵。平村史編纂資料室蔵。
- 内閣文庫蔵本末尾に、維時文政五次辛巳正月脱稿、同九戌年秋八月仲

浣写之、同十丙亥年春三月上浣於白鶴樓上再書。

注 文政6年 井上左太夫直伝の「塩硝製法」は現有せず 所蔵先も不明

18

飛驒焰硝 文政12年(1829)校訂淨書 長谷川忠崇著

- 焰硝、立焰硝、泡焰硝、唐焰硝、以上名称説明程度。飛州志第三に立项。
- 古焚硝石製法の次第書上、製納人飯島屋喜兵衛書上あれど、年記なし
岐阜県史史料編第3部。川越史83。

19

焰硝秘録 天保3年(1832)夏4月12日 藤原秀茂著

- 岩山などの大岩の下に年久しく雨露当らず所は自然と焰硝生ずる者なり云々、人家床下の土からの製法、人造製法は7年目に取り出す法。
- 毛筆書26枚綴小型判1冊。徳島県立図書館所蔵。川越史51。

20

和蘭焰硝採方並火薬製法 天保13年(1842)壬寅首夏会写之 旭岱子。

- サルペートルは焰硝と訳す、焰硝製法、又法、硫黄製法、炭粉製法、火薬調合法、増薬作勢法、試薬勢遠近法、火薬を再製直す法。毛筆書5枚。東京大学附属図書館所蔵「焰硝採方作方合薬製法」に合本。川越史52。

21

飛驒流硝石製法仕方 弘化2年(1845)8月14日 硝石焚常助拜

- 床下土を取り生灰と合わせて桶に入れる法、道具覚は釜桶鍬ひしゃくなど。毛筆書3枚。佐藤信済所蔵弥高文庫番号外資料。川越史60。

22

硝石製煉法 嘉永6年(1853)冬11月、桜寧居士識、文久3年平野元亮著
蔵板

- 硝石をとるべき地をえらぶ事、土をなめて・・・、硝石土を・・・、

1 製煉に・・・、硝石土を・・・、自造硝石の事、器物の図説。書肆文
2 溪堂発行、文久3年、表紙共40枚1冊和綴。刈谷市刈谷図書館所蔵。
3 復刻版恒和出版（江戸科学古典叢書）

23

硝石製煉秘訣 嘉永6年（1853）10月18日 山本沈三郎著（丹波梅迫と十倉
半介の製法）

序、土地を見る事、硝石水を煮煉する事、灰汁桶・さまし桶に移す事、
清煮の法、食塩を取る法。毛筆書12枚。内閣文庫文鳳堂雑纂より、川
越重昌所蔵、史56。

24

硝石製造辨・作焰硝製造方 嘉永7年（1854）寅7月 佐藤信済元海著
図式、焰硝煎煉法、土論、文字、土取法・・・、灰汁桶並灰桶、灰汁
煎・・・、中煎、清煎、・・・附録。東都書林版、表紙共41枚1冊和
綴。弥高文庫所蔵。加越能文庫蔵。復刻版恒和出版（江戸科学古典叢書
12）

25

塩硝製取調草稿 嘉永7年（1854）成立、羽州莊内藩士高橋勘助著
家の下土硝石の有無を知る事、悪塩硝製造の法、煎の法、（残欠）。
毛筆書2枚、川越重昌氏所蔵。

26

萬宝叢書・硝石篇 安政元年（1854）伊藤圭介訳著
硝石篇卷上、中、下、附録から成る。
上に、硝石総論、硝石成分、産地、尿尿草木の硝石質、硝石丘式、硝
石土、生硝石精製法など。中に、人工硝土淋法並煮法、ユカリイネ国
硝石製法、硝石塩法など。下に、硝石含食塩の表など。附録に初煮中
煮清煮法など。花綻書屋蔵版、表紙共96枚1冊和綴。復刻版恒和出版
(江戸科学古典叢書12)。

27

造硝備考・巻の一、二、三、四、五 安政4年(1857) 大久保楽水子述
佐藤信昭訂補。

・巻の一に下谷隱士氣楽水子の序、硝石は治國平天下の功大にして軍用火薬の重要さを説き、硝石堆の36桶煎法をあげ、国の造硝局設立を強調。1冊33枚綴。巻の二に造硝局の適地をあげ併せて農用地開拓の効用を説く。1冊38枚綴。巻の三に硝堆局と維持園収支の数字を細かく記す。1冊36枚綴。巻の四に硝堆局における経済収支見込を何万両において、硝堆76ヶ所 420堆から年々百万余斤の造硝と農産物の増加を説く。1冊28枚綴。巻の五に種樹硝石維持園の理想郷開拓は国家安民隆盛の基原である、君恩、皇國、国家、諸侯、天下、窮民などの語が見える。1冊36枚綴。毛筆書き総紙数 171枚。秋田県弥高神社弥高文庫所蔵。

28

火薬集要・前篇 安政5年(1858) 剛屏中居義倚著

・硝石の部に、総論、土の論、垂水試方並硝石製方論、生灰の論、硝石の鑑定、作粉硝石製。53枚活版1冊。福井市立図書館所蔵。

29

提硝秘要概畧 万延元年(1860) 8月6日 佐藤信昭著

・概要、焰硝を探る法、焰硝の善惡試る法、焰硝を清潔にする法、軍事に貯える事、焰硝を造る法。末尾に父信済が腹中にあって未だ世に出ざる書、其侄に筆記して貴君(浅野彦五郎)年来の御執心に答える。毛筆書8枚。秋田県弥高文庫所蔵。川越史26。

30

硝石製法 文久3年(1863) 3月翻訳於壯猶館 米積淨記

・第13章、硝石、硝酸塩の事、第14章硝石丘の事、第15章天然と人工の硝石土、第16章各国の硝石小屋、第17章以下23章まであり。野紙に毛筆書12枚。京都大学附属図書館所蔵。

硝石製造仕法書 文久3年(1863)5月 柏原学而識(訳)

- 硝石来因の事、硝石を作る事、長屋造り硝石阜、硝石厨の事、再製硝石法、捷徑精製法、火薬製法の事。和蘭依百乙氏書の訳毛筆書14枚。沢田平氏所蔵。川越史82。

草製作硝録 前編・後編 明治初年刻 原稿 安政5年(1858)

田原陶猗著

- 前編、草製作硝廠、丘廠中に用いる草品、草を抱釀する辨、造坪の事
人尿馬尿を打そそぎ60日毎に切返、明治2年春此稿を出す。土を驗する事、煮煉の費用、附載
- 後編、草製の作硝を製煉する法。

明治初年版、出版元不明。和綴34枚。東京大学史料。

(年号など不明のもの)

ア

消石丘を造る法並びに煉消石の法 年号、著者不明

- ・朴消を夥く産し得る所の良法は先長さ百フーテン(15間)広さ十六フーテン(2間半)の舎を造るべし云々、以下製法を記す。野紙に毛筆書転写11枚。京都大学附属図書館所蔵。

イ

人造硝石仕法抜萃 年号、著者不明

- ・硝石丘を築造の小屋長さ十丈三尺余幅一丈六尺余云々、硝山、硝牆の事、人造硝石の御試御場所大工見積り書道具品書付など。野紙に毛筆書転写4枚。京都大学附属図書館所蔵。

ウ

人造硝石御試場所並製法の事 年号、著者不明

- ・人造硝石御試御場所、坪数建物諸道具の義、人足並諸雜費、汚穢物取扱人の名前、下水馬尿小便所増建の義、6か年平均経費見積り、石灰見本の義、平潟内手続の義、海辺造硝所景観絵図。毛筆書10枚。京都大学附属図書館所蔵。

エ

硝石丘 年号、著者不明

- ・3か年に30万貫目造り込入用の米などの調べ書、4年目、再造り込入用のもの。野紙に毛筆書転写4枚。京都大学附属図書館所蔵。

オ

砲術備要卷之四附録・消石 年号不明

- ・本編に消石の製煉並採取等の事は論説に及ばず此物火砲第一の主薬にして云々、以下名称、酸性、品質、煎煉などを解説。毛筆書8枚。内閣文庫蔵。川越重昌所蔵、史173。

力

煉硝秘訣 年号不明 烏有陳人識

◦序、図式。毛筆書3枚。

◦神物水火・焰硝煎煉法。毛筆書3枚。後欠。

◦部分コピー所莊吉氏所蔵。川越史76。

キ

塩高の製法 著者、年号不明、調積集の内

◦薬煮合様の事、塩硝より塩氣取事、土塩硝煮る事など。毛筆書7枚。

◦国会図書館所蔵。川越史89。

ク

塩硝製法秘書・塩硝搗車組立方和解 年号不明、吉川訳。

◦焰硝製法、塩硝を殖うるの法。毛筆書15枚。長崎県立図書館所蔵。川越史59。

ケ

上嶋半兵衛忠文硝石製法伝・年号不明

◦序文、土目を見ること、諸道具数量寸法、初日、2日目、3日目、4日目、中煮、清煮。各所に図入り説明あって記述はくわしい。毛筆22枚合綴。末尾に、此硝石制作者信濃国高遠領宮木村住上嶋忠文所書記也、上原昌茂写とある。宮木村は現辰野町の大字の一つだが、上嶋半兵衛の名も硝石製造記録も現存しない（川越論文）。

分類 2-B

銃砲術、火術に関する伝書目録

鉄炮玉拵并薬之秘方之書

慶長15年（1610）5月吉日 32丁 石川県金沢市立玉川図書館蔵

16.81-748

合薬の安見秘伝書

慶長16年（1611） 卷物仕立 秋田県猪股直三家文書

極秘口伝の巻

（合薬・鉄砲） 慶長18年（1613）19年 河野文庫
金沢市立玉川図書館蔵 095.25-7

鉄炮秘伝書・鉄炮星分秘伝書

戸蒔九郎兵衛より石沢庄右衛門宛 寛永19年（1642）正月11日
卷物仕立 秋田県猪股直三家文書

不易流銃学全書・伝書等所蔵目録

片倉家中芝辻家蔵 書物123巻について 寛延4年（1751）
宮城県白石市・芝辻家文書

周発台図説 坂本天山著者の控本

高遠藩歩兵長兼武庫令源俊豈識、周発仕掛様の次第。安永7年8月15
日周発始試矢棒並町着の覚、初打の覚、三百目火矢棒製の図、ポンベ
ン玉の製、百日玉御筒砲術 安永8年（1779）3月 122丁 和綴
莊内藩黒崎蔵角印、国分文庫印

佩（はい）弾銃銘の由来

江戸時代の科学者久米通賢筆 久米通賢発明にかかる銃の銘を解説

天保11年（1840） 「実学史研究」V 抜刷 澤田平氏所蔵

西洋砲製薬 付西洋砲打控

硫黄花の法、チャンの法、水挽の法、煮合の法、ロントの法、ホイス
管、ペイプ製法ほか 嘉永3年夏（1850）写 元養氣堂蔵

川越重昌蔵 毛筆写本37枚

火攻図略（全） 川勝泰運著、模写細見実

図版49点、附録図版8点 安政2年（1855） 求天学館版 24丁綴本
福井市立図書館蔵

集要 砲薬新書 中居剛屏著

白根山硫黄掘取の図など図版8図 水車臼の事など29編、砲術諸流
の事 安政2年（1855）5月 40丁和綴 内閣文庫蔵本

砲学通志 初篇卷之一 星巖閑讚藏輯、海堂園蔵版

火薬の部、大砲の部、砲架の部、小銃の部、弾薬の部、火具の部、機
械の部、発射の部、砲台の部、軍艦の部、野戦の部、運用の部
安政4年（1857）刊 活版41丁 大分県日出藩史料（別冊6）

砲学通志 卷之二 星巖閑讚藏輯、海堂園蔵版

火薬之部下、合薬、諸国火薬方剤表、細末法、混和法、乾燥法、付沢
法、塩法、試法、分離法、復損、加物、収藏、禁戒措置、運輸
安政4年（1857）刊 活版35丁 大分県日出藩史料（別冊6）

大分県日出藩先賢文集史料「砲学通史」 その一

安政4年（1857） 昭和55年刊 日出藩史料刊行会 復刻 83枚

新製食塩御試御場所之義 南部丹波守家来 島 甫

安政5年（1858） 毛筆5丁 京大図書館蔵本

砲術関係舍密 卷之一 薩摩 田原明章（陶猗）編集

蒸餾水の製法、炭酸ガスの製法、硝石の製煉法、硫黄の製法、木炭の

焼製法、…… 硝酸銀液の法、塩酸銀の法、海塩精の製法、塩酸硫土、
兵学寮にて脱稿 明治初年版 50丁和綴 東京大学史料編纂所蔵

古事類苑——小銃術

武技部十五、小銃術、鉄砲 居処部十一、家作五、塩硝藏
活字本、武技部56頁、居処部4頁 刊本「古事類苑」より

大炮放発術 高橋助左衛門訳

硝石ノ性弁、硝石ヲ製スル法、又法、硫黄の製法、炭末製法、火薬調合ノ法 所荘吉氏蔵 毛筆本9枚

火薬法 全 エルンストヒュールウエルキ（真火術）硝石の部、硫黄の部、木炭の部、附録

和綴42丁 弥高文庫蔵本213

今般鉄山之義巨細申上書 鍋屋米積記

取懸入用銀の事、鍛冶場勘定の事、鉄山入用人勤方の事、吹場等絵図の事 辰8月 毛筆9丁 京大図書館蔵本

森重流砲術三種卷 森重ト秋著 補に五ヶ山の記事あり

刊本「西沢勇志智著 日本火術薬法之卷」p 62～p 80

安盛流火薬書

安盛流相図玉の巻、流星の巻、□雷□砲の巻、裂火連矢の巻、火器の巻 刊本「西沢勇志智著、日本火術薬法之卷」p 100～p 132

萩野流

薬法の部、砲火矢寸尺書 刊本「西沢勇志智著、日本火術薬法之卷」p 340～p 352

森重流砲術火矢類集巻

初町火矢巻、中町火矢巻、矢砲録巻、砲竹箭巻、火箭子規巻、火箭花巻 刊本「西沢勇志智著、日本火術薬法之卷」p 354～p 424

分類 2-B 付

佐藤信渕に関する文献資料目録

- 三銃用法論 全三冊 佐藤信渕著
- 天然流三銃用法論 全一冊 佐藤信渕著
- 鉄砲窮理論 全二冊 佐藤信渕著
- 三銃用法論 全三冊 佐藤信渕著
- 自走火船説 全一冊 佐藤信渕著
「佐藤信渕武学集中巻」
- 自走火船三枚図説 全一冊 佐藤信渕著
「佐藤信渕武学集中巻」
- 異風炮異様船製作記 全一冊 佐藤信渕著
「佐藤信渕武学集中巻」
- 大衍流伝書 全一冊 佐藤信渕著
- 天然流大銃窮理論 全一冊 佐藤信渕著
- 大円流深秘録 全四冊 佐藤信渕著
- 天然流奥秘口授録 全一冊 佐藤信渕著
- 深秘十箇條 全一冊 佐藤信渕著

火薬法 全一冊 佐藤信済所蔵

歐州火薬硝石の訳書の写本

(一) エルンストヒュール ウエルキ 硝石の部、硫黄の部、木炭の部

(二) エルンストヒュール ウエルキ附録 毛筆 42枚綴和本

弥高文庫蔵

ドンドルフードル製法 全一冊

歐州火薬訳本の佐藤信済自筆写本 ドンドルフードル（雷粉）を製する法 ステルクワートル（強水）を製する法 製薬炉図

天保 8 年 (1837) 正月 火術秘方録卷六十三 毛筆 7 枚綴

弥高文庫蔵

硝石製造辨 全一冊 佐藤信済著

信済の歿後に信済名義で書店が出版したもの 嘉永 7 年 (1854) 寅 7 月既刊 表紙共41枚綴 弥高文庫蔵

造硝備考 全五冊

信済高弟大久保仁斎と信済長男信昭の共著

卷の一 33枚綴 卷の二 38枚綴

卷の三 36枚綴 卷の四 28枚綴

卷の五 36枚綴

安政 4 年 (1857) 弥高文庫蔵

東西火攻辨 全三冊 佐藤信済著

東西火攻辨 附録（火薬製造明辨） 全二冊 佐藤信済著

提硝秘要概要 全二冊 佐藤信済著

遠照玉火製造秘訣 全一冊 佐藤信済著

雷粉強水法 全一冊 佐藤信済著

兵学者 佐藤信済 川越重昌著

序 章 佐藤信済と黎明アジア

第 1 章 佐藤家の兵学とその継承

第 2 章 阿波に於ける兵学の実地研究

第 3 章 古典に依る兵学の完成

第 4 章 阿片戦争に依る兵学の強調

第 5 章 信済思想の神髄

昭和18年3月 鶴書房 A5 529頁

佐藤信済の「天火の小球」説 —その説と西洋化学史への投影— 川越重昌著

平成3年5月 弥高神社 平田篤胤佐藤信済研究所 B6 74頁

考証 佐藤信済 飢饉の旅路 —父信季に従って故郷を後にした信済に日光、足尾で何があったのか— 川越重昌著

平成4年5月 弥高神社 平田篤胤佐藤信済研究所 B6 93頁

考証 佐藤信済 津山藩江戸屋敷 —殺氣燃える猛士三十八人の決起— 川越重昌著

平成7年5月 弥高神社 平田篤胤佐藤信済研究所 B6 119頁